

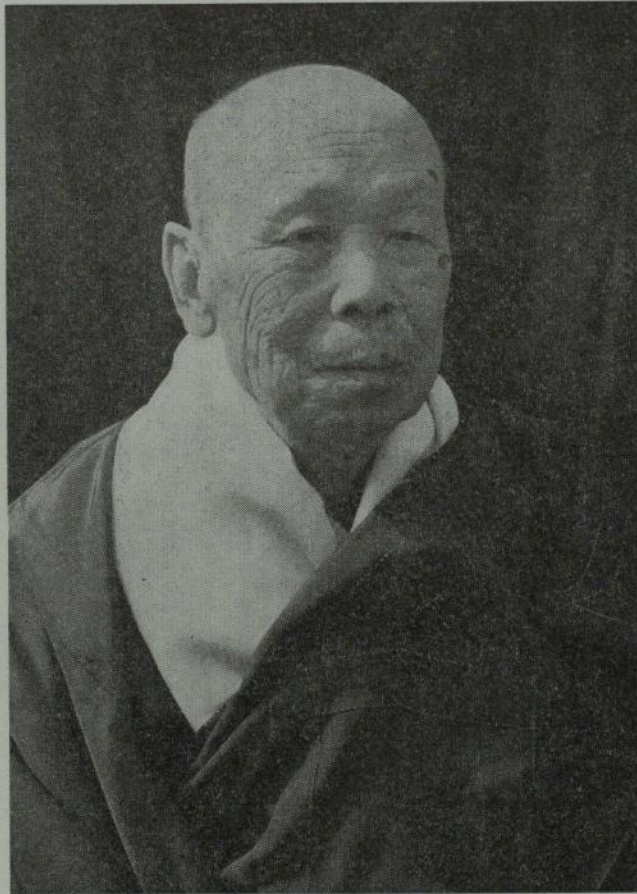
NO 170

# 全 仏

9 / 46

## 生命を尊重する

生命を尊重することは生物の本触である。生きとし生ける者は、皆一様に自らを守護する性能をもっている。中でも鳥獣らは外敵から逃れようとする、不断の警誠と努力を惜しまないが、同時に他の生命を侵害しようとする意欲から脱することができない運命の下にある。



(浄土宗大本山増上寺法主大野法道台下)

しかし人間だけは、それとは全く異った存在である。この世界では生命尊重が、一つの綱目ではなくして、生きるわざの全面課題であり、最終の目的でもあるからである。三度食事にしても、生命保持を基本とするものであらねばならない、かくして人間は生命を大切にして、その本質を研く用意を怠らないように努めなければならないと思う。

# 四国大会に望む

## 過去十八回の実績を顧みて

栗 本 俊 道

(東京都仏教連合会会長  
全日本仏教会常務理事)



全日本仏教徒会議の第十  
九回が四国大会として高松  
市で開催される。昭和廿八  
年霊峰高野山で第一回をひ  
らいてから、福井県永平  
寺、身延山久遠寺、比叡山

延暦寺、奈良県東大寺、東京浅草寺、京都知恩院、金  
沢市東本願寺別院、神奈川県鶴見総持寺、大阪難波別  
院と四天王寺など連年十回を経て、第十七回の千葉県  
成田山新勝寺のほかは、第十一回から福岡県、静岡  
県、長野県（善光寺協力）、愛知県、岐阜県、岡山  
県、新潟県と毎年県仏主権のかたちで県内寺院の檀信  
徒を動員した地方仏教会組織拡大の仏教大会となつて  
いることはご承知の通りである。今回は大衆信仰に生  
きる八十八カ所霊場の聖地に、全国仏教徒が結集し互  
いに心と心、手と手を固く結び合い、信仰に生活基盤  
をおく人間性豊かな家庭と社会の建設のため、その使  
命の完遂を誓おうという目的で開かれるわけである  
が、香川、徳島、愛媛、高知県仏教会共催でありまた  
主権全仏としては従来と変わった大会の持ち方が配慮さ  
れ期待されねばならない。

全日本仏教会主権とはいえ、年一回の大会は定款に

もとづく年次大会の如きものではなく、組織強化のた  
めの仏教徒会議であり、仏教教化運動の総合的企画お  
よび促進のための事業となっているからで、組合、団  
体等の大会とは全く趣きを異にしている。従って宗派  
を背景とする大本山、所属寺院を会員とする地方仏教  
会（都府県仏）に大会開催の殆んどすべてが負わされ  
ているわけで、こうしたあり方については考究されね  
ばなるまい。

当初この会議を持ったのは、その定款にある、仏陀  
の和の精神を基調とし、相互の緊密な連絡提携のもと  
に、全国の各種仏教運動に全一性と計画性をもたせ、  
真に時代に即応する活発な全一仏教運動の展開と仏教  
による国際文化の交流を促進する全仏の目的達成のた  
めの一事業であったから、会議の内容も全一仏教運動  
の推進、仏教の実践活動、国際仏教の交流問題等に  
しぼられ、これに時事問題が付加されて論議されたので  
あった。そして年一回の日本仏教徒会議には、各宗派  
の重役要人実力者等万障を差し繰って参加出席の熱意  
を示し、宗派界団体から推せん参加の仏教人は、そ  
の会議目的に真剣に取り組んだものである。いまの実  
態現象とはおよそ遠い隔たりを痛感する一人であり、  
過去に関係した人たちは恐らく同感されていることと

思う。

仏教徒会議を高野山を会場としたから高野山大会、  
浅草寺で開いたから浅草寺大会等々同様に今回は四国  
でひらくから四国大会と名づけているので、本来会議  
が全仏定款の目的であって大会そのものは定款にある  
事業ではないから、この点は再認識しなければならな  
い。全一仏教運動の理念と実践を会議テーマとする四  
国大会、全一仏教運動の高揚、仏教徒の社会的活動は  
今十九回を重ねた第一回から討議されてきた問題であ  
り、出題者全仏当事者の確固たる指導理念が打ち出さ  
れる絶好の機会である。ただ大会の人集めや、観光プ  
ームに便乗した人々の会議であっては識者の批判が危  
惧される。仏教文化会議の仏教学者グループのシンポ  
ジウムの成果も、それだけでなく日本仏教徒会議の目  
的である全一仏教の理念に生かされてほしいと考  
える。

“みほとけのもとみんなで手をつなごう”の大会ス  
ローガンは会議の実践によってその本義が示される。  
かけこえただけでは陳腐な合言葉に過ぎないであろう。  
第十九回四国大会において今までの会議の在り方に終  
止符的役割を果たし、全一仏教運動展開の尖兵となる  
の心構えを樹立してほしいものである。

高度成長による物質文明偏重の時流は、人間疎外の  
断絶をもたらし、ついには人間価値をも喪失せしめる  
諸問題をかもし出しているのが今日の社会の姿であ  
る。今や、この人類社会の繁栄を真の幸福に向けるべ  
く、人間の本质に根ざす仏教精神の「和」と「慈悲」  
の教えとに、実践活動することこそ、われら仏教徒に  
よせられた大きな期待であろうと呼びかけた四国大会  
の主催者は、是非今度の会議を成功させねばならない  
第二十回に引継がれる原点であるからである。

本誌前号に、全仏の機構刷新へ制度調査委員会が一  
年余の審議検討した答申書全文が発表された。全日本



# みほとけのもと みんなで手をつなごう

## 第十九回全日本仏教徒会議四国大会

第十九回全日本仏教徒会議四国大会は十月七、八日の二日間開催地元の四国四県（香川・愛媛・徳島・高知）仏教会の強力な支援のもとに、まれにみる盛況裡に開催されることが予想されている。

第一日（十月七日）は主会場の高松市民会館で大会式典及び総会がひらかれ、全国よりの仏教徒代表が互いに協力して大会テーマ「みほとけのもと、みんなの手をつなごう」の大デモストレーションを展開する。

この意義ある大会に於て討議される各議案は全日本仏教会の議案審査委員会できちんとして慎重に審議されて次のように決定した。なを各支部の基本的なありかたは第一部会が理論討議、第二部会が実践、発表となっている。

### （大会提出議案）

#### 第一部会

#### 第一号議案

教化組織の拡充について

（神奈川県仏教会）

#### 第二号議案

仏教徒の政治結果組織化の必要性に

ついて

（仏教徒政治同盟）

#### 第三号議案

都道府県仏教会の組織強化について

（全仏・組織局）

#### 第二部会

#### 第四号議案

地方仏教徒大会を開催しよう

#### 第五号議案

フタガヤ日本寺の完成に協力しよう

（国際仏教興隆協会）

#### 第六号議案

釈尊生誕の地ルンビニー復興に対する世界各国仏教徒の協力について

（全仏・国際局）

#### 第七号議案

寺院管理の合理化について

（香川県仏教会）

## 前大会よりの動き

### 採択事項の処理

昨年十月新潟県長岡市に於て開催され

た第十八回全仏会議に提案された議案は部会に於て討議、総会で採択された各号について左記の通り処理された。

第一号 仏教のもつ積極性を認識させよう。（神奈川県仏）

文化局が主体となり、中央講習会、文化会議等にもこの趣旨を以て機会あるごとに働きかけを行なったが、特に本年は各宗派教化担当者会議を設け、積極的に教化の共通点を採りあつた。

第二号 靖国神社法案の本質を究明しよう。（近代仏教研究会）

総務局が担当し、理事会、各宗派宗務総長会等を開催し、関係方面とも緊密に連携をとって教次の討議を重ね、政府自民党に対して善処方の要望書を提出したがなを流動的なこの問題については慎重に研究をつづけている。

第三号 仏教徒は公害から自然生命を護り仏国土の実現に努めよう。（国柱会）

組織局が主となって運動しているが、公害問題は漸次国民運動として各地に盛り上つて来た、環境庁の新設を機会に、自然保護についても各地域仏教会とも連携をとって対処している。

第四号 沖縄の核兵器の撤去を要請しよう。（国際仏教伝道会）

本土復帰を控えて、国際局で処理した即ち政府要路に、仏教徒の要望として働きかけを行なっている。

第五号 「お経を習おう運動」を普及しよう（岐阜県仏）

第六号 仏旗掲揚の徹底をはかろう。

（静岡県仏）

第七号 各寺院に社会福祉相談事業を開設しよう。（聖観音宗）

第八号 青少年の非行対策の一試案（福岡県仏）

第九号 地方寺院及び住職の社会的実践について（千葉県仏）

第十号 仏教婦人の社会的実践について（全日本仏教婦人連盟）

第五十の各号は、仏教徒の社会的実践についての発表として採択されたもので、その趣旨を加盟各団体に周知し具現化について協力を依頼した。

第十一号 寺院と檀信徒は協力して仏教を興隆しよう。（長岡市檀信徒会）

第十二号 仏教に対する現代青年の意見とその問題点（長岡仏青）

第十三号 仏教青年は時代の問題点といかにかかわりあいを持つべきか。（全日仏青）

各宗派 各県仏等に各号の採択された要旨を報告し、檀信徒会、仏教青年会の設置または強化を要請しその具現化に鋭意努力中である。

第十四号 仏教徒の政治的意識の高揚について。（仏政同）

組織局に於て担当し公正なる選挙の推進とともに各地域仏教会に周知しその徹底を計っている。



# 釈尊聖地の復興

## ルンビニ開発計画が具体化

釈迦の生誕の地であるルンビニは、その神聖さにおいて他の世界宗教における聖地と対等の地位を占める全世界仏教徒の聖地であり、毎年数千の巡礼者がこの地を訪れている。にも拘らず、未だに交通の便が悪く、巡礼者観光客のための施設も不十分である。聖地から最も近い所にあるバイラワの飛行場と聖地を結ぶ唯一の連絡路は牛車の通れる二十一キロの道だけであり、これも雨季には通行不能になってしまふ。加えて、今日のルンビニは釈迦が生まれた頃の面影を殆んど止めず、沙羅の樹の森は二十キロも北へ移り、ヒマラヤの麓まで後退してしまっているし、聖なる庭そのものも、ただの空地と化し、目にとまる遺跡は極くわずかで、アショク王が建てた釈迦生誕の地を示す刻文石柱と、摩耶夫人のために新しくつくられた寺院が現存しているほか、発掘遺跡も保存状態がよくない現状である。

一九六七年春、ウ・タント国連事務総長がネパールを訪問した際、この地の開発を示唆し、巡礼者あるいは観光客のための宿泊施設を持った巡礼観光センターを造ることをもくろまれた。

同年、ネパール側から国連に対して、

ルンビニ開発計画のための技術援助の要請が正式に行なわれ、それ以来ウ・タント氏の考えがとられた。

国連、国連開発計画およびユネスコ派遣の調査団がそれぞれこの地を訪れた結果、ルンビニ開発と保存のためのマスタープランをネパール政府の協力のもとに実施することが提案された

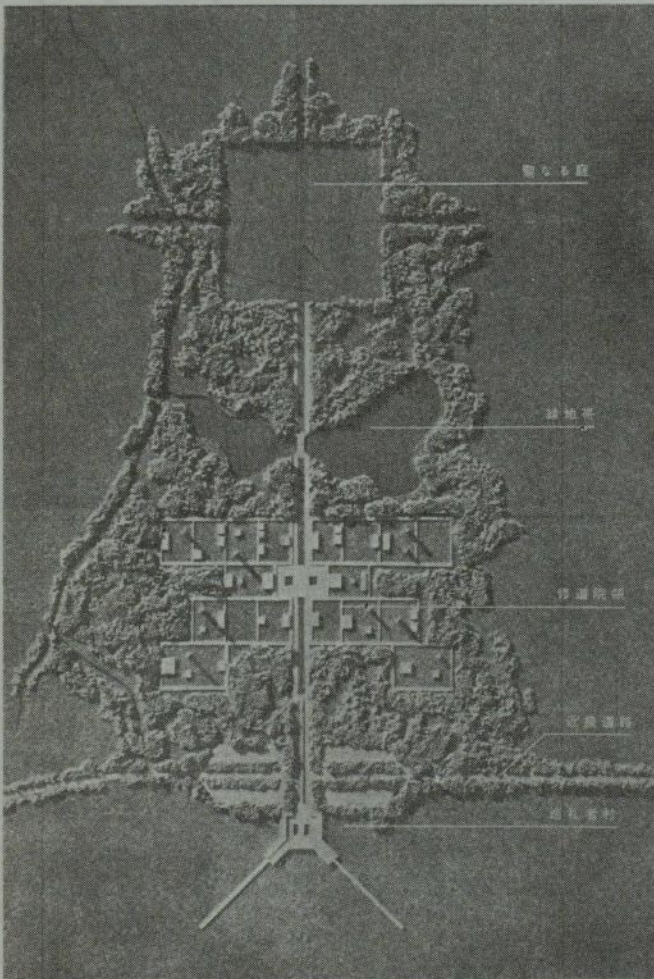
この計画は、聖地に通じる全長二十一キロの道路（幅員七Mハイウェイ、雨季通行可）

聖なる庭（生誕地を中心とする一マイル四方の区域で発掘される遺跡をそのまま保存する）

僧院の建つ境内（聖なる庭の北、一マイル四方の区域で、本殿、宝物殿のほか、将来は各国および各宗派のための寺院僧院等も置かれるよう計画）

それらを中心にかこむ緑地、そ

(開発計画俯瞰図)



れに加えて巡礼村（さらに北の一マイル四方の区域、宿泊施設、旅行案内所、郵便、電話、診療所等の公共施設や商店）これらの五項目からなっている。

当初の見積りでは、この計画実現に要する費用総額は、必要な建物、宿泊施設道路などの建設並びにその敷地の基礎工事を含めて、五六六万ドル（約二十億余円）となっている。この事業計画は、関係諸国の政府、民間の自発的な寄付金によりまかなわれる予定である。

この件に関して、一九七〇年二月十六日、ネパールのほかアフガニスタン、ビルマ、カンボジア、セイロン、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシ

ヤ、パキスタン、シンガポールおよびタイの計十三カ国の代表が国連本部で会合し、ルンビニ開発のための委員会を設置すると同時に、ネパール政府と双方対等で互恵的国际間の協力援助を呼びかけるべく準備をすることが提案された。

それに基づき、国連より丹下健三東大教授にマスタープラン作成の依頼がありさらに一九七一年八月、東京で国連設計委員会が丹下教授を中心に、関係諸国から技術専門家十数人が参加して開かれ、設計方針をきめると共に、「遺跡類を発掘してそのまゝの姿で保存し、特定宗派にかたよらない観光地として開発する」という基本原則が確認された。

# 無名日本人遺骨

## 五千体の送還に使用して

鶴 飼 隆 玄

(浄土宗総本山知恩院執事長)

戦前の朝鮮半島は日本人の大陸雄飛の踏台として人々に親しまれ、日韓合併後は急速な日本化が図られ、為に現住民の感情、伝統を無視した無理押しが目立ち、その惻愍の爪跡が反日感情として今蘇った感じである。

昭和十二年八月動員下令で北支戦線に送られた時唯一度釜山から新義洲まで列車で通っただけの思い出しかない私が、浄土宗総本山知恩院執事長として就任してから程なく、戦前浄土宗京城別院に母を納骨して引揚げた遺族の一人下田靖雄さんの孝心と宗として遺骨に対する責任感から関係方面にお願ひして送還を企てたが容易に実現せずやと三年がかりで最後は曹溪宗在日弘法院李行願師の御協力で昨年七月知恩院に二千余体をお迎えすることが出来たのである。

このことで韓国の人々と仏縁が芽生え昨年十二月十八日にソウル市の好意で建設された無名日本人遺骨台祠台の開眼供養に招かれ御回向さして頂いたのである。

この時も一度妨害事件があつて一週間おくれ十八日に行なわれ厳戒裡に執行されるといふ異状ムードで出発したのである。

しかも市の公費若干五百万円で日本人五千人の遺骨台祠台が完成された事は私たちとして感激であると共

にお恥かしい思いでもあつたのである。「日本人は何をして、何を報いたか？」戦時動員された韓国籍の戦死者約二千体が厚生省の倉庫の一角に祭られていることを考えたならば必ず何かが来る怖れは感じられた。

帰国後本年一月になって目黒祐天寺貫主巖谷勝雄上人に心を語りお願ひしたところ即座にO・Kして頂いて祐天寺納骨堂に奉安して頂ける事になり、外務省を通じて厚生省に連絡され、正式に本年六月に移遷されたので内心ホットしたのではあるが、なお一抹の不安は消す事は出来なかつた。

ところが八月二十五日突如外務省から連絡があつて二十六日北東アジア課に行つてみると民族主義的な運動が過激になり遺骨も安泰でないので冒瀆されて国際問題化する前に、日本に引き取りたい、再三碑が傷害されているので一週間内に実施したいので安置所の設定もして欲しいと要請された。

来るべきものが来たという感じではあるが矢張り協力して日本に引取るべきであるとは考えた、それには引揚げ後の安置の処と人、二つには引きあげ方法を解決しなければと考え、まづ五千人の無縁仏を無条件で即時安置という困難な緊急処置を採つて頂ける人と所を考えたが多大の負担と永い犠牲を覚悟してやつて頂ける人と処を含めて苦慮した結果が日本の女関口横浜

市曹洞宗大本山総持寺の岩本勝俊禪師に懇願する事を決意し即時電話で御都合を伺つて二十七日午前十時御面接頂けることになったので全日仏に連絡して桜井局長が同道頂ける事になってヤレヤレの思いでした。

二十七日十時に参上致しました処、禪師は村上監院も同席の上事情聴取の上即時応援を頂き且つ奉還のため村上監院他二名の自費渡韓も御決定頂いたのである。

さすが日本仏教の最高指導者であると深く感激したのである。

すぐ外務省を訪れ経過を報告して全日仏を通して正式外務省よりお願ひすることと手続完了後一泊二日私が東道して全日仏、稲田理事長、村上監院他二名の総持寺代表兼に竹内事務官の六名で九月六、七日頃出発を内定したのである。

しかし今一つ韓国に於ける追悼会を堂々と執行してから送還するためには韓国仏教界の御協力を求めなければならぬので在日の李行願師に事情を説明して御協力を求めた処、心よく御引きうけ頂き、万事電話で連絡しておくから安心して行きなさいといわれて涙が出る程嬉しい仏教徒としての国際協調の必要とささやかな足跡が実を結んだ喜びを感じた。

以上の経過で九月七日九時五十分羽田発のJALで一行は出発、十二時過ぎ金浦空港着。日本大使館加賀書記官の他李行願師の連絡で曹溪宗、東国学院、華蓮寺、達磨会寺の代表者三十余名の御出迎えをうけて後、半島ホテルに旅装を解き大使館を訪問、挨拶と日程の打合せを行なった。

七日は六時三十分より大使公邸でガーデンパーティが催されるので韓国側もと要請されたので李青潭禪師蔡碧岩禪師ソウル副市長、達磨会李漢相寺八名の参加を求めた処、心よく承諾され、定刻全員出席されたの

である。

最初に私たちの信念を語りお願いした処即時、明日の慰霊法要は曹溪宗が主催して行う」と李院長が即決され大使館側でも耳を疑う程驚かれたのである。

その時李院長は今回の事件について「こんな事は恥かしい事であるが、君し日本人は今少し仏心があつたなればこんな事にはならず済んだであろう。今後仏教徒はお互いに連絡を密にし親善を深め、人々の教化を進めよう」と言われた事は忘れることが出来ない。

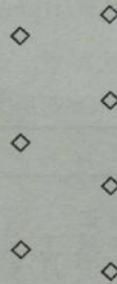
八日午前中は東国大学、曹溪宗総務院、李正子殿下等を歴訪して御挨拶申し上げ午後は所定の時間に大慈里葬祭場の式場に赴き式に加わった。

曹溪宗李青潭院長以下六十余名の僧尼の随喜の下莊厳裡に法要が執行され、引き続き村上監院導師の下一会の法要も行ない、上川公使以下参列の関係者を感激せしめたのである。

式後、遺骨は竹内事務官の率領で空港に向い一行は合祠台の指満現場、碧諱館趾を廻って関係両国人の見送りをうけて六時のJALで金浦空港を出発した。

機は予定より五十分着陸がおくれ九時前羽田着、総持寺、浄土宗、外務省、全日仏等の関係者多数の出迎えをうけ即夜総持寺大本堂に安置された。空港で手向けられた浄土宗寺院

婦人会の菊の花束は目立った供養であった。  
翌九日は曹洞宗菅長岩本禪師大導師の下一山大衆の懇ろな回顧をうけ、李禪師、白聖中国仏教会長、外務省遺族来賓初め多数参列者の感謝の焼香合掌を加えて、永遠に同寺の供養をうけて安置されることになった事は、日本人として嬉しい事である。



## 東京ブデイスト

### クラブが全仏に加盟

東京を中心とした、若手の仏教寺院住職や、教化運動に独自の活躍をつづけている東京ブデイストクラブが、今回全仏に加盟した。

東京ブデイストクラブは、昭和四十年に発足し、月例会を開き、とかくルーズになりやすい会合を反則金を徴収して会の運営を引きしめ、チャリティに供されるなど、年々全日仏青の育成には特に力を入れてきた。昨年は万博法輪閣の建設資金を寄せられるなど、全仏に協力がなされてきたが加盟を契機にその活動が期待される。

### 四国大会表彰団体決る

去る九月十七日開催された全仏常務理事会において本年度の優良団体及び個人が左の如く決定された。

優良団体 埼玉県仏教会

岐阜県仏教会

新潟県仏教会

個人 半田孝海師(長野県仏教会長)

### 変更・移動

石川県仏教会長

壁昇美師(大谷派金沢教務所長) 九月二十一日付

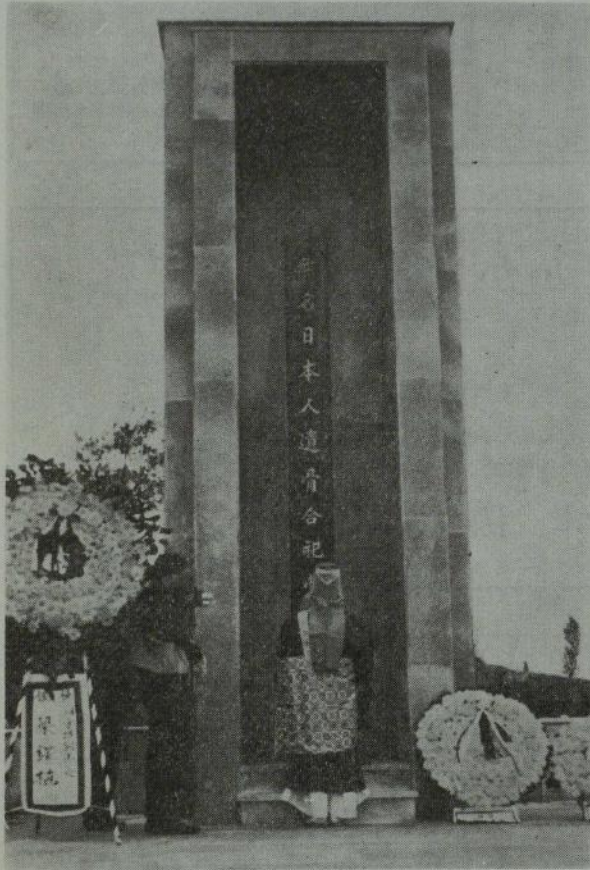
### 全仏人事

総務局主事 山田俊和 三月三十一日付退職

国際局書記 名倉好子 七月一日付 新任

国際局嘱託 真柄信雄 八月三十一日付退職

総務局雇員 棚橋弘子 八月三十一日付退職



算泰康・小沢富夫編

# 日本人の倫理思想

日本民族の思想・精神の源泉を  
迎る初の体系的倫理思想史

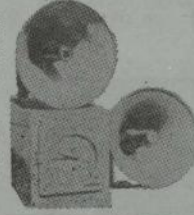
A5判・326頁・1300円

東 宣 出 版

東京都千代田区富士見2-6-9  
(電) 03 (263) 0997 振替154384

全日本仏教会御推奨

# 電気梵鐘



装置一式・トランペット  
ホーン二基  
金式拾五万円也  
(取付配線工事費は別途)

これは便利ノ費用は安く効果は抜群、座して天下の名鐘を聞く。幼稚園では、ベル又はチャイム使用可能

製作販売  
東海電機株式会社  
〒244 横浜市戸塚区矢部町1025番地  
TEL (045) 861-3311代表

## お寺に仏旗をかかげよう

大	たて 150C—よこ 247C	¥ 4,500円	小	70C—100C	¥ 1,400円
中	90C— 135C	¥ 2,500円	手旗	35C—100C	¥ 300円

もめん 別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)

各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

## 財団法人 全日本仏教会

111 東京都台東区西浅草1-5-5 電話 03・843・6341~3

## ねはん会 法要 現地厳修 インド日本寺上棟法要 インド、ネパール、ビルマ仏蹟巡拝団募集

本年五月セイロンにおいて開催されることになっておりまして第十回世界仏教徒会議は同国の政情不安という不測の事態が突発し、明年五月に延期されることになりました。

全仏ではそれにかわるインド仏蹟巡拝団派遣を計画し、下記によって実施することになりました。

このたびの巡拝団は、釈尊ねはん会法要とインド日本寺上棟法要の現地での奉修と、四大仏蹟ビルマ、ネパール等の仏蹟をかね仏教による国際親善交流を行なうためのものであります。

二月は気候もよく全仏が公式に派遣する代表団でありますので、なにとぞこの有意義な巡拝団にぜひ御参加下さるようお願い申し上げます。

一、経路記

## 財団法人 全日本仏教会

東京都台東区西浅草一の五の五(本願寺内)

電話 〇三二八四三三六三四三

東京(德里)アグラ(ルンビニ)クシナガラ(ペナレス)カトマンズ(ブダガヤ)カルカッタ(ラングーン)東京  
二期間  
昭和四十七年二月九日より同月二十五日まで

三、団費  
三六五、〇〇〇円(ただし、旅券代、注射代査証代別)

四、申込方法  
申込用紙に申込金五万円を添えて全仏国際局に申込みのこと。

五、参加定員  
二十五名  
うちすでに半数のお申込がおりますから早目にお申込下さい。

六、申込締切  
本年九月末日まで  
詳細は電話またはハガキで照会下さい。

昭和四十六年九月一日発行  
四月号 第一七〇号

発行人 伊藤哲雄

編集人 白幡憲佑

発行所 財団法人 全日本仏教会  
東京都台東区西浅草一五(本願寺内)